

【来自定着促进中心的通知】

一 中国帰国者定着促进中心

“远距离学习课程”推荐的文章 一

2008年3月，“表述自我的写作‘日语’课程”作为“远距离学习课程”的一门新设科目而正式开课。此课程旨在通过阅读有关学习日语的经验谈这类范文，获得用文字进行自我表述时的启示，其间一边与中心的任课老师借助邮来寄往的方式检验学习成果，一边整理并最终完成一篇有关自身日语学习经历的作文。在这一期里，我们想给大家推荐2008年3月开始学习，10月结业、居住在新潟县的立野加津子女士（68岁）写的文章。立野女士回国以后，遭遇并克服了许多令她愁眉不展的困难，其间她没有放弃过学习日语。并且从2003年起，一直坚持着学习“远距离课程”，直至今日。

据立野女士说，现在她已经懂得为每天的生活制造“乐趣”有多重要了。立野夫妇那和睦快乐的生活令人欣慰，同时我们也相信各位读者一定能从他们身上看到希望。

我学习日语的目的 立野 加津子

时间就像流水一样不知不觉地过去，一晃我回到日本已经11年了。我的双亲都是日本人，在中国出生的我，从二战结束到踏上故土，整整用了六十年的时间。其间我始终生活在中国。小学、初中、高中一共十二年的学生生活，然后又工作了三十二年。那些日子里发生了很多事情，可是同学以及同事之间的关系很好。虽然我是日本人，可没有受到过欺负和凌辱，

【定着促进センターからのお知らせ】

一 中国帰国者定着促进センター

「遠隔学習課程」から一

「遠隔学習課程」の新コースとして、2008年3月に「自己表現作文『日本語』コース」が開講されました。このコースは、日本語学習体験についてのモデル作文を読むことを通して自分の作文のヒントとなるものを学び、センターの担当者と郵便でやりとりをしながら、最終的に自分自身の日本語学習体験についての作文をまとめあげることが目的としています。今回は、このコースを2008年3月から取り始めて10月に修了した新潟県の立野加津子さん（68歳）の作文を紹介したいと思います。立野さんは帰国以来、様々な困難に出会い、悩み、それを乗り越えながら、その間もずっと日本語学習を続けていらっしやいました。そして、現在は2003年から始めた「遠隔学習課程」で学習を続けられています。

日々の暮らしの中に「楽しみ」を作ることが大事になるようになったといわれる今日この頃、ご夫婦仲良く暮らしていらっしやる様子は微笑ましく、読む者に希望を与えてくれます。

「日本語学習の目的」 立野 加津子

時は川の流れるように知らず知らずに経っていき、日本へ帰ってもうすぐ11年になります。私の両親は日本人です。中国で生まれた私は、戦後から日本へ帰るまで60年間かかりました。ずっと中国で暮らしていました。小学校、中学校、高校までの12年間の学生時代、そして仕事を33年間しました。色々ありましたが、学校の友達や同僚との関係も良く、日本人という

大家对我非常友善，让我感到很幸福。

1998年，我回到了日本。令我备感意外的是，在自己的故土上竟然会遇到那么多的不便和困难。中国有句古训，“树高千丈，叶落归根”，我认为这是理所当然的事情。可是我作为一名日本人来到这个世界，却在海外生活了半生，双鬓花白之时叶落归根，祖国的一切于我来说却是生疏的、一无所知的。我连日语都不会说。这些使我每天都感到孤寂无助、愁苦不堪。其实造成这种情况的原因很简单：不懂日语。要想在地区社会扎下根来，就必须学会日语。于是我和我丈夫开始了日语学习。

我们俩的年纪都大了，学过的东西第二天就忘得干干净净。而我们住的地方一周只有一次“日语讲座”，光靠这个讲座是无法使我们的日语取得长足进步的。所以我们俩坚持每天夜以继日地自学，然而还是没有进步。在那些日子里，我心急如焚，失去信心，情绪也十分低落。就在这个时候，向我们伸出援助之手的，正是中国归国者支援・交流中心。我们是2002年9月搬到新潟县的，10月，中国归国者支援・交流中心的H老师就来到了新潟。那时她告诉我们中心开设了“远距离学习课程”。就这样我和我丈夫在2003年2月报名参加了远距离日语学习。我们都已进入暮年，记忆力也一天不如一天，和年轻人相比，需要花费几十倍的时间。我以“笨鸟先飞”这句话为座右铭，竭尽了自己的所能。通过远距离学习，我基本上能用日语和人交流了。现在什么事都自己解决。还可以领丈夫去医院看病。会话能力也在不断地提高。当然现在也还在继续学习。虽然不能说已经达到了至善至美的程度，不过我已经学完了十一门课，还剩下一门没有修。这十

ことで苛められることもなく、みんな親切で、幸せでした。

1998年に帰国しました。自分の国に帰ってから、こんなに大変だとは思ってもいませんでした。中国で「他郷に流離う者の落着き先は、結局その故郷に戻る」という諺があります。私もその通りだと思います。しかし、日本人として生まれましたが半生を外国で暮らし、年を取って帰国した私は日本の何から何まで全然わかりませんでした。言葉も分かりませんし、毎日寂しくて苦しかったです。どうしてこんな思いをするのかといえば、やはり日本語ができないからです。地域に根付くための日本語を勉強しなければなりません。それで私と主人は日本語の勉強を始めることにしました。

私たちは年をとり、勉強したことを次の日にはほとんど忘れてしまいます。私が住んでいるところは週一回の「日本語講座」だけしかありませんでした。それだけでは私の日本語を上達させるのには不十分でした。毎日独学を続け、深夜まで勉強しましたが、進歩がありませんでした。そんな日々の中、気ばかりが焦りました。自信もなくなり落ち込みました。その時私たちを助けてくれたのは中国帰国者支援・交流センターでした。2002年9月新潟市へ引っ越して来ました。10月、中国帰国者支援・交流センターのH先生が新潟にいらっしゃいました。その時先生が「遠隔学習課程」のことを教えてくださいました。そして、2003年2月から私と主人は「遠隔学習課程」を始めました。私たちは年をとり、記憶力は日に日に衰えています。若者より時間は何十倍もかかります。私は「のろまの鳥は早めに飛び立つ」を座右の銘として、で

一年間、我始終没有间断日语学习。回顾这十年零十个月的日子，真可谓感慨万端。

为了学习日语，我甚至没有安装可以收看中国节目的卫星电视，不过我丈夫已经上了年纪，日语也不好，每天都显得挺寂寞。我觉得要是一直这样下去，我丈夫会很可怜。所以今年七月，我家安装了卫星电视。现在，我告诫自己要为了健康而快乐，为了健康而努力。今后，要想在日本社会生存下去，是离不开日语的。接下来我打算学习电脑，总不能让自己落在时代之后吧。



现在依然有众多的报名者在排队等待参加“远距离课程”的学习，想必各位读者中间也有同样的人吧。让大家如此等候，我们表示诚挚的歉意。为了尽早解决这个问题，也为了使2009年度上学期的招生能够照常进行，现在，我们正在商榷和建立一套能够在各个方面扩充招生人员的方针和体制。下一期招生时间一经确定，我们便会将最新招生要点邮寄到大家手中。

〈联系单位〉

〒359-0042 埼玉県所沢市並木 6-4-2

中国帰国者定着促進中心

教務第二課（远程係）

電話:04-2993-1662 传真:04-2991-1689

きる限り頑張りました。この勉強で日本語で話すこともできるようになり、何でも自分でやっています。主人を連れて病院にも行きます。会話能力も向上しました。今も学習を続けています。完璧とは言えませんが、修了した課程は11種類になります。取っていないコースはあと1種類です。この11年間ずっと日本語を勉強してきました。10年10カ月の学習を思い返すと、感慨無量です。

日本語を勉強するために中国のテレビもつけていませんでした。しかし、主人も年をとり、日本語も出来ないの毎日寂しそうに見えます。今までの状態を続けるのは主人がかわいそうだと思います、今年7月中国のテレビを付けました。今は健康のために楽しむこと、頑張ることを心掛けています。これからも日本社会で生きていくために、日本語との付き合いは続きます。次はパソコンを勉強するつもりです。新時代に落ちこぼれないように頑張ります。

「遠隔学習課程」の応募者の状況ですが、現在も受講待機者が大勢いる状態で、本誌読者の中にもお待ちになっている方もいらっしゃるかもしれません。お待たせして大変申し訳ありません。何とかこの状況を解決し、2009年度上期の募集を例年通り実施できるよう、現在、あらゆる方面で受け入れ拡充策を検討し、体制作りをしているところです。次期の募集時期が決定し次期、皆さんのお手元に新しい募集要項をお送りいたします。

〈問い合わせ先〉 〒359-0042

さいたまけんところざわし なみき 埼玉県所沢市並木6-4-2 中国帰国者定着促進

センター 教務第2課（遠隔係）

電話:04-2993-1662 FAX:04-2991-1689